

構成メンバー

所長：	教授	飯田 薫子	(生活習慣病学)	
教員：	教授	宮本 泰則	(神経生物学)	
	特任准教授	伊倉 貞吉	(生物物理学)	
	特任講師	橋本 恵	(神経科学)	
	特任助教	伊藤 容子	(植物細胞生物学)	
研究員：	教授	相川 京子	(糖鎖生物学)	
	教授	赤松 利恵	(栄養教育学)	
	教授	市 育代	(脂質栄養学)	
	教授	植村 知博	(植物細胞生物学)	
	教授	須藤 紀子	(災害栄養学)	
	教授	棚谷 綾	(創薬化学)	
	教授	千葉 和義	(分子発生生物学)	
	教授	服田 昌之	(サンゴ生物学)	
	教授	三宅 秀彦	(臨床遺伝学)	
	教授	森光康次郎	(食品機能化学)	
	教授	由良 敬	(計算生物学)	
	准教授	近藤 るみ	(集団遺伝学)	
	准教授	佐藤 敦子	(環境発生進化学)	
	准教授	清水 誠	(分子栄養学)	
	准教授	新田 陽子	(調理科学)	
	講師	大金 賢司	(ケミカルバイオロジー)	
	講師	小林 正樹	(基礎栄養学)	
	講師	佐々木元子	(遺伝カウンセリング学)	
	助教	野田 響子	(食品加工貯蔵学)	
	助教	毛内 拡	(神経生理学)	
	客員教員：	客員教授	石川 朋子	(栄養化学)
		客員教授	木塚 康彦	(機能生物学)
		客員教授	藤原 葉子	(栄養科学)
客員教授		山口 芳樹	(糖鎖構造生物学)	
客員教授		山本 一夫	(糖鎖認識化学)	
客員教授		楊 素卿	(栄養学)	
客員准教授		後藤 真里	(脂質化学)	
客員准教授		豊島 由香	(栄養化学)	
客員准教授		中村美詠子	(公衆衛生学)	

客員研究員：伊達 公恵 (糖鎖生化学)

研究協力員：友澤 周子 (遺伝カウンセリング学)
渡辺 基子 (遺伝カウンセリング学)

ムーンショットプロジェクト事務局：
特任アソシエイトフェロー 橋高 洋介
特任アソシエイトフェロー 辻 佳那重

研究所事務局：
アカデミック・アシスタント 保坂 好江

◆お茶の水女子大学では、人間の発達段階に即した心身の健康と生活環境の向上を意図したイノベーションを実現する教育研究拠点として、本学のこれまでの教育研究の実績や人材育成の経験を活かし、更に発展させるよう、総合的、国際的な研究・教育活動を行うことを目的とした「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を、2016（平成28）年に開設しました。本機構は、「ヒューマンライフサイエンス研究所（旧：ヒューマンライフイノベーション研究所）」と「人間発達教育科学研究所」の2つの研究所で構成されています。

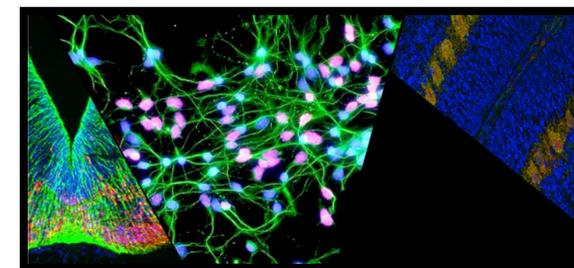


〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学 アカデミックプラザ棟202室
ヒューマンライフサイエンス研究所事務局
Tel/Fax: 03-5978-2571
E-mail: office-ihls@cc.ocha.ac.jp
URL: <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/>

お茶の水女子大学 ヒューマンライフサイエンス研究所

Institute for Human Life Science

健やかで活力ある人生を作る「こころ」と
「からだ」の健康イノベーション創出
— ヒューマンライフサイエンス研究所
による研究と開発 —



<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/>



目的

本研究所は、本学の生命科学・生活科学を研究テーマとする学内教員を組織し、人が生涯を通じて健康で心豊かな生活を過ごすための研究・開発と、安全・安心な社会環境構築のためのイノベーション創出を目指して、2016年4月に設置されました。2022年4月、組織改編のため名称をヒューマンライフサイエンス研究所へ変更しました。

少子高齢化社会における社会的諸問題に対応して、「こころ」と「からだ」の両側面から、

- ① 健やかで活力と意欲ある子どもたちの育成
- ② 一生を通じたQOLの向上と健康維持
- ③ QOLを維持した健康寿命の実現

を目標に、基礎から応用までの研究・開発を推進します。

組織と研究内容

ヒューマンライフサイエンス研究所（旧：ヒューマンライフイノベーション研究所）には、「生化・代謝学部門」、「栄養科学部門」、「食品科学部門」、「糖鎖科学部門」、「遺伝学部門」および「発生・進化学部門」を設け、以下のキーワードを中心に研究を推進します。

○健やかな育ち

健やかで活力と意欲ある子どもたちの育成

我が国の将来を支える若い世代がより元気に成長するために、心身の健全な発達のための食習慣提案のための研究を行います。

○活力ある暮らし

QOLの向上と健康維持

一生を通じてストレスや疾患に負けない「こころ」と「からだ」を作るため、炎症・感染症、メタボリックシンドロームの予防や改善のための研究・開発を行い、思春期から子育て世代まで、様々な世代に向けた教育プログラムをつくります。

○元気な老い

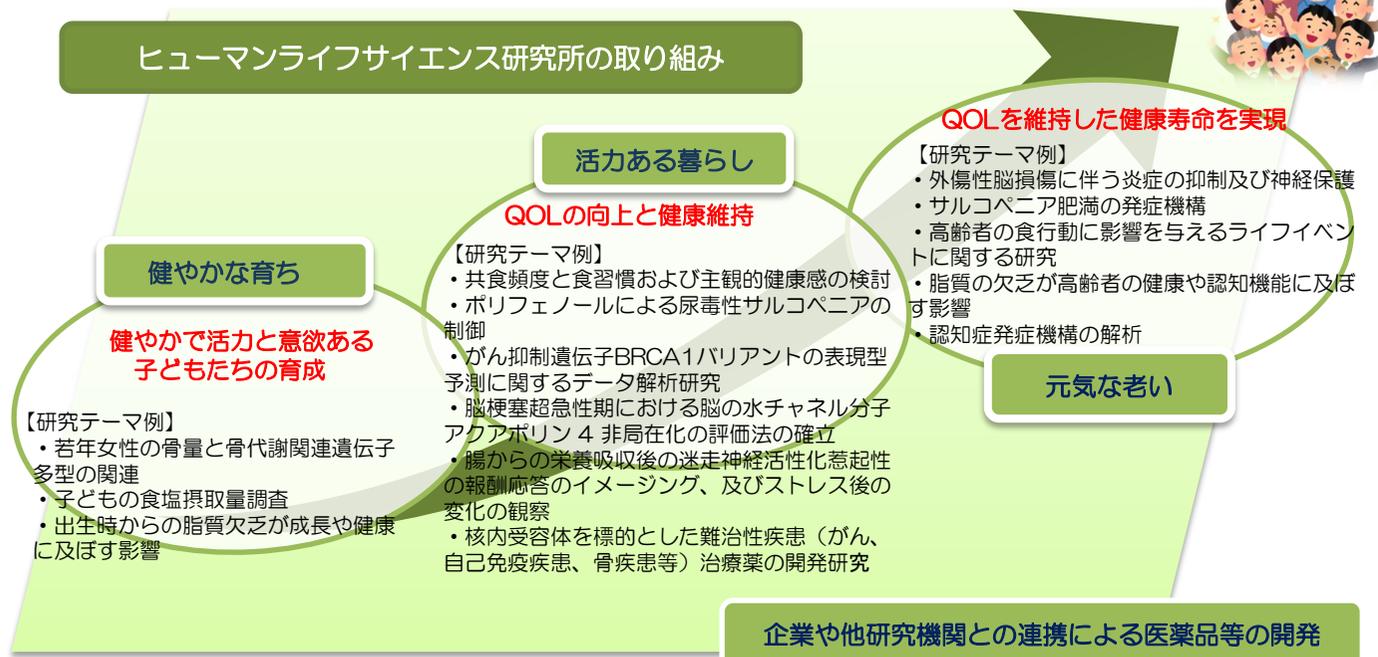
QOLを維持した健康寿命を実現

ロコモティブシンドロームや神経変性疾患の改善や治療に結びつく研究と開発、高齢者のための食や運動に関する研究を推進し、高齢者自身による自己管理能力の増進を図るための研究・開発と実践を行います。

○応用・開発

企業や他機関との連携による医薬品等の開発研究

企業等との連携により、「変形性関節症治療薬の開発」、「外傷性脳損傷や出血性ショックに伴う炎症の抑制に向けた研究」、「生活習慣病予防や高齢者のQOLに資する食品の開発」など、生涯を通じて健康で心豊かな生活を過ごすための研究・開発を目指します。



研究成果の波及効果

○ 生命現象の基本的理解、新たな調節方法の創出や生命活動の理解の進展（学術的效果）

○ ストレス、生活習慣病や老化に伴う疾患の克服方策に関する研究開発による健康長寿の推進。
子どもの健やかな育成、人々の生活の質の向上、高齢者の活力ある生活スタイルの実現（社会的効果）